

海外研修旅行（イタリア）の報告（第3報）

大塚三雄・岡田俊治・中川 実
高橋正則・清水勝昭

1. はじめに

本学では、国際的視野を広め、自己の育成を深める目的で、海外研修旅行を実施している。ここ数年は、イタリアとして行われており、夏休みを利用して提携校であるイタリア国立フェラーリ工業専門学校を訪問、学校での研修会をはじめとし、通常での観光では体験できないフェラーリ社の工場見学など貴重な体験を通じて、異文化を肌で感じてきており、今回で4回目である。本稿では、2003年に行われたイタリア研修旅行について報告する。

2. 研修旅程

イタリア研修旅行は、提携校であるイタリア国立フェラーリ工業専門学校での研修及びフェラーリ工場の見学を中心とした自動車に関わる研修と、異国文化に関わる研修をおりまぜながら旅程を検討し立案した。研修旅行の日程は、2003年8月29日（金）～9月5日（金）の6泊8日に決定し旅程を2月から調整し、更に研修の中心となる日程を4月から調整してきた。しかし、今回の旅程決定後に、6月上旬工場見学の都合上、見学日の変更を余儀なくされ、全旅程を考え直す必要が発生した。イタリアの事情もありますが、もう少し早めに正しい情報を掴み変更の無いよう調整が必要であると考えた。その研修内容は、表1に示すように、イタリア国立フェラーリ工業専門学校

表1 イタリア研修旅行実施旅程

日時	移動及び宿泊	食事	旅程内容
8月29日 (金)	名古屋～ミラノ ミラノ泊	夕	名古屋空港集合(8:00) 名古屋空港よりルフトハンザ航空にて出発(10:30)～フランクフルト着(15:30)、フランクフルト発(18:10)～ミラノリターナ空港着(19:25) 夕食(20:15～21:05)、ホテル着(21:20)
8月30日 (土)	ミラノ ミラノ泊	朝 昼	朝食(6:45～)、集合(7:30)、ホテル出発(7:45) ミラノ市内観光(最後の晚餐(8:00～、スフォルツェスコ城、スカラ座、ドゥオーモ)、(8:00～11:50) 昼食(12:10～13:30)、ホテルへ移動(13:30～13:40) 自由行動(14:00～21:50)、22:00 点呼
8月31日 (日)	ミラノ～ヴェローナ ヴェネツィア ヴェネツィア泊	朝 昼 夕	朝食(7:00～)、自由行動(8:00～10:30)、10:30 点呼 集合(10:45)、ホテル出発(11:00)、昼食(12:00～13:20) ヴェローナへ移動(14:15～15:50) ヴェローナ市内観光(ジュリエットの家、エルベ広場、アレナシニョリア広場、サンタナス、ターシア広場、教会、ローマ劇場)(16:00～18:10) トイレ休憩(SA)(18:40～19:10) ヴェネツィアへ移動(19:15～20:45) ホテルで夕食(21:00～)
9月1日 (月)	ヴェネツィア ヴェネツィア泊	朝 昼	朝食(7:00～)、集合(7:50)、ホテル出発(8:00) 島へ移動ポート(8:30～9:10) 市内観光(リアトル橋、ドゥカレ宮殿、サンマルコ寺院、福音の橋、サンマルコ広場)(9:15～12:00) ガラス工房(12:10～13:00)、昼食(13:15～14:15) ゴンドラ遊覧(14:30～15:10) 自由行動(15:20～8:25)、8:25 点呼 ホテルへ移動(8:45～9:20)
2日(火)	ヴェネツィア ～ポーネー ～ボローネー ～モデナ ～モデナ泊	朝 昼 夕	朝食(7:00～)、集合(7:45)、ホテル出発(8:15)、ポーネーヤへ移動(8:20～10:10)、休憩と訪問挨拶(10:10～11:00) ドカティ社工場及び博物館見学(11:00～13:30)、 昼食(13:40～14:20)、 ボローネーへ移動(14:15～15:00)、ランボルギーニ博物館の見学(15:10～16:20)、モデナへ移動(16:30～17:30)、 ホテルで夕食(19:30～21:00)
3日(水)	モデナ ～マラネロ ポーネーヤ泊	朝 昼 夕	朝食(7:30～)、集合(8:15)、ホテル出発(8:30) フェラーリ工場付近散策(ストコス見学(8:50～9:45) ZANASI(整備工場)の見学(10:00～10:20) フェラーリ工業専門学校研修(10:30～11:15) 新聞記者による記者会見(11:30～12:30) 研修修了書授与(12:30～13:00)、フェラーリ工場食堂にて昼食(13:30～14:10)、TONI SILVANO&C(整備工場)の見学(14:30～14:50)、フェラーリ工場見学(15:00～16:30) フェラーリ博物館見学及び自由行動(16:30～18:00) テストコースの見学(18:00～18:20) ポーネーヤへ移動(18:30～20:00) 夕食(20:20～21:30)、ホテルへ移動(21:40～22:40)
4日(木)	ポーネーヤ～名古屋	朝	朝食(6:45～)、集合(7:15)、ホテル出発(7:30) ポーネーヤ空港よりルフトハンザ航空にて出発(10:50)～フランクフルト着(12:40)、フランクフルト発(14:15)～
5日(金)	名古屋着		名古屋空港着(8:30)、着後解散

での研修をはじめとしてフェラーリ社及びランボルギーニ社の工場見学、さらに今回新たに二輪社（バイク）メーカーであるドカティ工場の見学を加えた。また、フェラーリ博物館、ランボルギーニ博物館、ドカティ博物館の見学、フェラーリ車専門整備工場トニーオート、ザナシー及びフェラーリ社のテストコース等の見学、異国文化に関わる研修では、ミラノ、ヴェローナ、ヴェネツィアの3都市を周った。

3. 参加募集

研修旅行の参加者募集状況は、年々増加傾向にあり募集定員35名を確保するのも、早い時期に決定できるようになった。これは、保護者の方の理解を早めに得るため、3月下旬に新1年生及び新2年生の保護者に案内を郵送し、入学式終了後には新入生及びその保護者に体育館で連絡案内し、新2年生には、4月8日の交通安全教室終了後、体育館内にて案内し、また、全学生を対象に海外研修旅行に関わる意識調査アンケートを4月8日のクラス別ガイダンスに実施し、興味を示す学生の把握を行った結果と考える。このことにより、早い時期に参加者数の確保ができた。学内では、4月16日に各教室及び主要建物、受付窓口、相談窓口にポスターを貼り、研修旅行のピアールをしながら4月24日に第1回研修旅行参加希望者説明会を行った。説明会までの申込書記入者は31名、説明会当日の参加者は42名中申込書記入者が21名と参加希望申込書記入者は52名に達し、募集定員人数を大きく上回った。これにより、少しでも多くの学生に参加してもらうため、募集定員人数を6名分増やし、5月8日に21名を対象に抽選会を行った。その結果10名が決定した。その後、申込金振込者を対象にパスポート等研修旅行に関わる具体的な内容の説明会を6月12日、7月11日、25日の3回行った。また、保護者の方にも研修旅行先の確認をして頂くためガイドブック及び最終案内を8月1日に郵送した。申込書記入者の中でキャンセル数は4名、その内3名は申込金振込後のキャンセルなので、申込金返金の対応について今後の検討課題になると考える。研修旅行最終参加者は、1年生29名、2年生10名、専攻科2名で合計41名と募集定員（35名）を上回る結果であった。

4. 研修旅行風景

研修旅行1日目は、午前8時に名古屋空港に集合し結団式を行った後、名古屋空港からフランクフルトへ向けて午前10時30分に飛び立ち12時間の長いフライトを体験し、更にフランクフルトを経由しミラノ・リテーナ空港に着いたのは、現地時間の午後7時25分（日本との時差は7時間）であった。それから、バスでミラノ市内にある宿泊ホテルに1時間かけて移動し、途中イタリアで初の夕食を味わった後、ホテルに到着したのが、午後9時半頃であった。学生諸君は、長旅と時差の影響により大変疲れている様子だった。

2日目は、早朝からミラノ市内観光で、最後の晩餐と呼ばれる有名な壁画を見学した。また、スカラ座、スフォルツェスコ城、ドゥオーモ教会を見学し、異国の文化や歴史を感じ取っていた。

午後から自由研修で学生たちは、ホテルからドゥオーモ広場まで各々タクシーで移動し、ブランド品の買い物をする者、事前研究してきた場所を見学する者、ホテルで休憩を取り明日に備える者もいて、徐々に環境に慣れてきた様子だった。

3日目は、自由研修時間が10時30分頃までであったので、学生たちは朝食を終えてから出発時間までホテル周辺を散歩しながらミラノの街を惜しんだ。ミラノの街を後に、バスで出発してから昼食を挟んで、ヴェローナへ移動した。市内観光では、ロミオとジュリエットで有名なジュリエットの家近郊、エルベ広場、アリーナシニョリーア広場、サンタナス、ターシア広場、ローマ劇場など約2時間見学した。ジュリエットの家の様子を写真1に示す。この街は、ローマ市を小さくしたような落ち着いた風情ある街であったので、もう少し時間を掛けて見学してみたい街であった。その後、バスで水の都であるヴェネツィアに1時間半掛けて移動し、ホテルには21時に到着した。

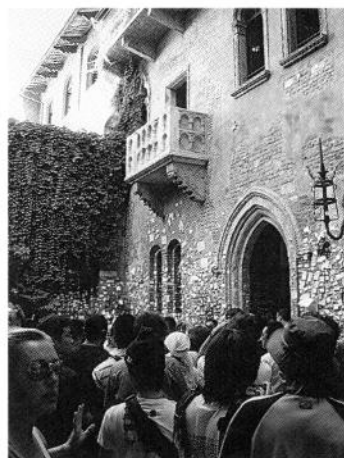


写真1

4日目は、ヴェネツィア本島に水上バス（船）で移動し、市内観光でドゥカーレ宮殿やサンマルコ寺院をはじめとして、サンマルコ広場、溜息の橋、リアトル橋、ガラス細工工房などを見学した。ガラス細工店の様子を写真2に示す。昼食後、水の都ヴェネツィアを遊覧するゴンドラ（船）に乗船した。しかし、今回は潮の影響と雨による増水や水の濁りなどにより遊覧コースが制限された。ゴンドラ遊覧の様子を写真3に示す。その後、自由研修に入り他では絶対に味わえないような雰囲気、夜までたっぷり肌で感じ取った。



写真2



写真3

クに興味がある学生にとっては、かなり魅力的な場所だった。その様子を写真4に示す。また、昼食はドカティ本社社員食堂で外部の旅行団が沢山参入するのは初めてという中で味わえたので、学生たちにとって格別なものであり大変満足をしていた。午後は、ポローニャからポロネーゼへバスで45分かけて移動し、ランボルギーニ本社を訪問した。工場の見学は、事前に見学許可が出ていたにも関わらず、当日は新型車（ガヤルド）の生産中と発表ということで、博物館に設けられた窓からの一部分しか見学できなかった。その後、ポロネーゼからモデナへバスで1時間かけて移動し、宿泊ホテルにて夕食をとった。



写真4



写真5

6日目は、自動車に関わる研修先、国立フェラーリ専門学校との交流であった。朝から工場付近にあるフィオラノ・サーキット（フェラーリ社テストコース）の見学は、観戦スポット近くでF1カーの走行練習を見ることができ、学生諸君は気持ちが高ぶり、かなり興奮して見ている。また、ザナシー（フェラーリ専門の整備工場）や、トニーオート（整備工場）の見学、その周辺の散策ができ充実しているようであった。トニーオートでの様子を写真5に示す。見学後、フェラーリ工業専門学校での研修が行われた。

その様子を写真6に示す。研修修了後、今回の研修予定には無かったマラネロ市での記者会見が盛大に行われ、その中で研修修了証書授与式が行われた。記者会見の様子を写真7に示す。また昼食は、フェラーリ本社社員食堂でとった。午後からは、一般の人は許可無しでは絶対入る事の出来ないフェラーリ社工場の見学を、最大45名の多人数の見学許可を頂き、また、フェラーリ博物館での見学では、新型フェラーリ（エンツォ）も展示してあり学生は、とても満足していた。フェラーリ博物館での様子を写真8に示す。



写真6

7日目は、帰路に着くため、ポローニャのホテルを午前7時30分に出発し、ポローニャ空港よりフランクフルト経由で名古屋に向かい、8日目の朝、



写真7



写真8

全員無事に名古屋空港に到着し解団式を行った後、それぞれの家路に向かった。

5. アンケート結果と考察

アンケートは、研修旅行参加者を対象として、旅程最終日に研修旅行全般、宿泊ホテル、各研修先等についての感想を5段階評価（5. とても良かった、4. 良かった、3. 普通、2. やや不満、1. 不満）してもらったものである。その結果を表2に示す。

このアンケート結果から、自動車に関する研修の中でフェラーリ社の工場見学は98%、フェラーリ博物館は83%、ドカティ社の工場見学は90%、ドカティ博物館見学は80%、それぞれの学生が満足していることがわかる。これは、新型フェラーリ（エンツォ）車を誰よりも早く見ることができ本学ならではの多人数の工場見学許可が取れたこと、四輪だけでなく二輪関係も初めて見学できたことによりかなり高い数値を示したと考える。一方、ランボルギーニ社の工場見学

表2 アンケート結果

5とても良かった 4良かった 3普通 2やや不満 1不満

	質問項目	5	率	4	率	54率	3	率	2	率	1	率	合計
1	イタリア研修旅行全般	30	73%	11	27%	100%	0	0%	0	0%	0	0%	41
2	ミラノ(エグゼクティブ)	12	29%	19	46%	76%	9	22%	1	2%	0	0%	41
	ヴェネツィア(ラグナスイート)	35	85%	3	7%	93%	1	2%	2	5%	0	0%	41
	モデナ(ミニリビリー)	6	15%	16	39%	54%	15	37%	4	10%	0	0%	41
	ポローニャ(トップパークホテル)	2	5%	4	10%	15%	14	34%	12	29%	9	22%	41
3	フェラーリ工場見学	32	78%	8	20%	98%	1	2%	0	0%	0	0%	41
4	フェラーリ博物館見学	23	56%	11	27%	83%	7	17%	0	0%	0	0%	41
5	フェラーリ校の研修	16	39%	16	39%	78%	6	15%	2	5%	1	2%	41
6	工場付近の散策(整備工場等)	19	46%	17	41%	88%	4	10%	1	2%	0	0%	41
7	フェラーリ工場食堂での食事	23	56%	9	22%	78%	8	20%	1	2%	0	0%	41
8	ランボルギーニ工場見学	7	22%	2	6%	28%	5	16%	10	31%	8	25%	32
9	ランボルギーニ博物館見学	14	34%	11	27%	61%	9	22%	6	15%	1	2%	41
10	ドカティ工場見学	29	71%	8	20%	90%	4	10%	0	0%	0	0%	41
11	ドカティ博物館見学	24	59%	9	22%	80%	7	17%	1	2%	0	0%	41
12	移動に利用したバス	16	39%	13	32%	71%	9	22%	3	7%	0	0%	41
13	ミラノ市内観光	25	61%	14	34%	95%	2	5%	0	0%	0	0%	41
14	ヴェローナ市内観光	20	49%	18	44%	93%	3	7%	0	0%	0	0%	41
15	ヴェネツィア市内観光	27	66%	13	32%	98%	1	2%	0	0%	0	0%	41

は28%、博物館は61%と前年度の77%を下回る結果となった。これは、工場見学が一部分しかできなかったことが影響して顕著に表れたと考える。また、異文化に関する研修先は、ヴェネツィアについては98%、ミラノについては95%、ヴェローナについては93%とどの場所も前年より多くの学生が満足している結果となった。これは、異国文化を肌で感じ取るということで自由研修があったがミラノでは、昨年あまりとれなかった自由研修時間を、約1日分とすることでゆとりができたことと、移動手段としてはタクシーを利用して行動範囲を広げることができたからだと考える。ヴェネツィアでは、水の都を満喫できるゴンドラにての遊覧と、島での自由研修を夜まで取れたことまた、ヴェローナでは、短い見学時間だったが、思ったより街全体がまともで大変美しい姿に感動したことでかなり質の高い研修だったと考える。旅行全般においては、満足度が100%と、前年度97%を上回った結果になった。

このような結果から今年度は、四輪自動車関係以外に二輪自動車関係の見学を新たに加えたこと、異国の文化地は目的地に対する行程の道筋にあり、無駄なく研修ができたことによるバランスのとれた旅程であったと考える。従って、自動車に関わる研修は、付加価値のある研修先を常に見出し、異国文化に関わる研修は、行程に無駄がなく自由研修時間を少しでも長くとり、じっくり肌で感じられるようにすれば、すべての学生に対応できると考える。今後も、研修旅行に参加した学生が更なる魅力を感じられるよう、研修旅程を立案する段階で、過去の参加者アンケート結果や報告書を有効に活用し検討することが重要になると考える。

6. ま と め

この研修旅行では、海外研修旅行に関わる意識調査アンケートや過去の参加者アンケート結果及び報告書を吟味しながら旅程を検討し立案してきので、学生が異国での貴重な体験を満足してくれる結果となった。このことは将来、国際社会の貢献や自らの実体験に役立てればよいと思う。

また、現地では多少の問題点があったが、研修旅行の行程中は病気けがも無く、健康状態を維持し順調に予定通り実施でき、全員が無事に帰国できたことが、何よりも1番の成果だった。

最後に、この研修旅行を実施するにあたり多大な協力を頂いた本学の先生方、研修先の調整をして頂いた学園本部の蜂須賀先生には、ここに深く感謝の意を表します。

参 考 文 献

- 1) 大塚三雄, 木下勝晴, 林文明, 森光弘, 山崎秀美: 中日本自動車短期大学論叢 第34号(2003), 海外研修旅行(イタリア)の報告(第1報) p.103-107
- 2) 大塚三雄, 鈴木敦巳, 林文明, 中川実, 松本美紀: 中日本自動車短期大学論叢 第34号(2003), 海外研修旅行(イタリア)の報告(第2報) p.109-113